



制作ソフトを使いながら
模型船のデータを作る
平山さん



初めて来た
佐世保での
仕事と暮らし

特集
移住者の皆さん
に伺いました！

佐世保の住み心地は いかがですか？



本市は急速に進む人口減少や少子化などに対応するため、平成 29 年に移住促進事業の拠点となる「させぼ移住サポートプラザ」を新みなとターミナル内に設置し、移住者向けの就職や住居、子育て、各種支援制度のサポートを行うなど、積極的に事業に取り組んでいます。昨年にはその対象を近隣市町まで拡大し、「西九州させぼ移住サポートプラザ」としてリニューアルしました。このサポートプラザを通じた移住者数も昨年度は 231 人と県内で一番多くなっています。今回の特集では、この本市の取り組みなどを通して佐世保に移住して来られた皆さんにスポットを当て、佐世保を選ばれた理由や佐世保暮らしの感想などを伺いました。皆さんのお知り合いなどに移住をお考えの方などがいらっしゃいましたら、どうぞ参考にしてください。

妻との結婚を機に佐世保へ 職場や近所の人に恵まれています

平山 甚也さん

職場のサポートで楽しく仕事
近所の人との交流も楽しみ

「移住する前は佐世保に一度も来たことがありませんでしたが、佐世保出身の妻との結婚を機に、引っ越してきました」と話すのは五島出身で東京や福岡などで仕事をし、約 2 年前に移住してきた平山甚也さん。「小さいころは祖父母と一緒に五島に住んでいて、県外に引越した後も夏によく帰省していたので、佐世保は第二の故郷だと思っていました。五島に近いこともあり、佐世保移住への不安や戸惑いはあまり感じませんでしたね」と話します。

補助制度やお仕事情報プラザを
活用して移住の準備を

「移住を考えていたときに、佐世保市が移住支援を行っていることを妻から教えてもらいました。実際に相談してみると、さまざまな制度があることが分かり、家賃の補助などをしてくださったので、助かりましたね」と振り返り、「仕事も探していたので、『お仕事情報プラザ』の存在もありがたかったです。求人や一度にたくさん見ることができましたし、何より市が運営しているから信頼して就職活動することができました」。

現在は市内で船舶コンサルタントを行う流体テクノ株式会社で勤めており、試験のために使用する模型船の設計を行っています。「以前から佐世保は造船のまちというイメージを持っていたので、仕事をするなら船関係の会社に勤めたいと思っていました」と平山さん。東京や福岡では営業などの仕事をしてきたため、現在の職場では慣れないことが多かったとのことですが「職場の人が仕事を丁寧に教えてくださり、今は自分で設計したものが実際に形になるのが楽しいです」とうれしそうに話します。

佐世保の魅力について尋ねると「日常的に海が見えるところですね。長い間東京や福岡に住んでいたためか、車で市内を運転中に海が見えるとすごく感動するんですよ」とのこと。佐世保暮らしについても「自然豊かで静かなまちに暮らせて本当に良かったと思います。近所の人や優しく、時々畑で採れた野菜をいただくこともあり、そういった交流も魅力の一つですね」と話していたそうです。

(取材日 1 月 21 日)

やりがいを感じる仕事をしながら

同級生たちと休日を満喫しています

竹内 正樹さん



「若い頃から、いずれ佐世保に戻るだろうなと思っていました」と話すのは本市出身の竹内正樹さん。専門学校を卒業後、東京都内でプログラマーとして働いていた竹内さんは、40歳を過ぎた頃から環境を変えたいと思い始め、約3年前に地元の佐世保に戻ってきました。「実家のことをいずれば考えないといけないと思っていましたし、東京で24年間働いていたことでいろいろなストレスも感じていたので、変化を求めていたんだと思います」と当時の心境を話します。

就職の心配を

お仕事情報プラザで払拭

「一番は自分の希望する職種に再就職できるかが心配でした」と移住前の気持ちを話す竹内さん。移住前に市内で就職をあっせんする「お仕事情報プラザ」を知り、約2カ月間利用しながら就職活動を行ったことで「事前の面談で、私が希望する職種や経歴を話していたので、希望に沿った会社を紹介していただけました。お仕事情報プラザのスタッフが実際に会社を訪問して会社の雰囲気や事前に教えてくれるので、安心して入社することができましたね」と振り返ります。

時間に余裕ができ

両親のサポートもできるよつに

現在市内でソフトウェアなどの開発を行う大新技研株式会社でシステムエンジニアとして働いており、「打ち合わせからプログラミング、納品まで幅広く仕事ができ、その分責任も重くなりますが、やりがいを感じています。また、東京では電車通勤でしたが、現在の会社では車通勤に変わったことで時間に余裕ができ、ストレスが大幅に減りました」と話す竹内さん。「プライベートの時間を確保しつつ、以前より仕事に取り組めているので、今の暮らしが私にとって合っているなど日々感じています」と笑顔で話します。

佐世保に戻ってきて1年間は東京とのギャップに戸惑うこともあったそうですが、同級生や友だちと会ったり、市内をドライブしたりして休日を満喫しているそうです。「両親についても近くでサポートがしやすくなり、今は一緒に新しい家を作る計画も進めているんですよ。そういったことも含め佐世保に帰ってきて良かったなと思います」と話していただきました。

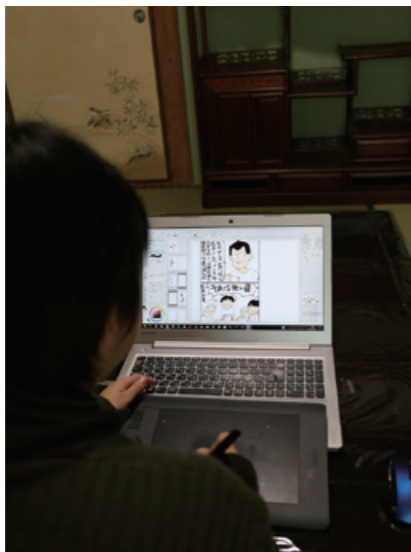
(取材日1月24日)

家族そろって記念撮影



子育てのため妻の地元に移住を決意

自宅で執筆するのり子さん



康則さんが好きな佐世保の風景



勤務中の康則さん



住みたかった海と山のまち

子育ても共働きも順調です

高橋 康則さん・のり子さん

栃木県出身で高校卒業後に上京し、東京で約15年間演劇の活動していた高橋康則さん。子育てをするために妻・のり子さんの地元である佐世保に家族4人で移住してきました。今まで夏や冬の帰省でのり子さんの実家を訪れることがあったことで「実家の近くから見えるSJKのクレーンと海、山が一緒に見える景色が印象的で、以前から住んでみたいと思っていました」と移居前から佐世保の印象は良かったそうです。

佐世保で楽しく共働き

現在康則さんは市内の不動産会社に勤めており「佐世保の町名などを覚えるのに少し苦労しましたが、東京でも似た仕事をしていましたので楽しく仕事できています」とのこと。のりさんもWEB制作等を行う会社に勤めながら、フリーペーパーで家族の日常を描いた4コマ漫画を執筆しており、充実した生活を過ごしているそうです。「移住する際に県の移住サポートセンターで仕事を紹介していただけてすぐに仕事に就くことができ、大変助かりました」と振り返りました。

不安だった保育所にも入所でき、子どもの成長を両親に見てもらっています

移住前から佐世保での暮らしに対してあまり抵抗はなかったそうですが「子どもたちが保育所や環境に慣れるか不安でした」と康則さん。以前、佐世保市内の保育所の状況を知り合いに尋ねたところ、子ども2人が同時に入所するのは難しいと聞いていたそうですが、「保育コンシェルジュの方に相談し、市内の状況をいろいろ教えていただきました。それを基に妻が実際に保育所を巡り、納得のいく保育所を見つけたことができました」とのこと。2人とも入所でき安心したそうです。

佐世保での暮らしについては「東京で家を買うことも考えたんですが、子どもの成長を妻の両親に見てもらえることができるし、お互い仕事もできるので、佐世保に移住してきて良かったと感じています」とのこと。「最近では長男も佐世保弁を覚えるようになり、佐世保での生活を楽しんでます」と話していただきました。

(取材日1月19日)



オフィスでプログラミング作業をする竹内さん



竹内正樹さん

西九州させば移住サポートプラザ



佐世保市や西九州させば広域都市圏内の移住に関する情報を集約し提供しています。また、県や総務省が設置する関係機関と連携し、効果的、効率的に「させば移住」をサポートします。住まいや仕事などお気軽にご相談ください。

新港町 8-1 (新みなとターミナル内)

相談時間

平日 8時30分～17時15分

(土・日曜、祝日は要予約)

☎ 25-9251

Eメール uji-turn@city.sasebo.lg.jp

移住者を全力応援 移住支援制度

本市では移住に関するさまざまな支援制度をご用意しています。詳しくは「佐世保市移住応援 GuideBook」をご覧ください。西九州させば移住サポートプラザにお尋ねください。

移住支援制度

- ① 佐世保市子育て世帯移住応援助成金 (1世帯当たり)
移住助成金 70,000円
賃貸住宅助成金 限度額 100,000円など
- ② 佐世保市賃貸住宅入居支援助成金 (1世帯当たり)
賃貸住宅助成金 限度額 50,000円など
- ③ 佐世保市住宅新築・購入助成金 (1世帯当たり)
市本土への移住者で中学生以下の子どものいる世帯
限度額 500,000円など
- ④ 佐世保市空き家等改修事業補助金 (1世帯当たり)
市本土への移住者で中学生以下の子どものいる世帯
限度額 500,000円など
- ⑤ 佐世保市移住就業支援助成金 (1人当たり)
国外や関東地方などからの移住 30,000円など
- ⑥ 佐世保市奨学金返還サポート制度
上限年間 200,000円を最長 10年間など
- ⑦ 東京圏からの移住支援金 (1世帯当たり)
100万円など (単身世帯は 600,000円)

※それぞれ要件や上限がありますので、詳しくはお尋ねください。

主な職業紹介機関

- させばお仕事情報プラザ 松浦町 5-1 ☎ 76-7713

創業のご相談

- 佐世保市産業支援センター 松浦町 5-1 ☎ 24-6051

お試し住宅

横尾町お試し住宅、江迎町お試し住宅、宇久町お試し住宅

お役立ちサイト

- 佐世保移住サポートサイト
<https://www.city.sasebo.lg.jp/99life/>
- 佐世保市空き家バンク「させば暮らし」
<http://sasebo-kurashi.jp/>

佐世保市移住応援
GuideBook



特集に関する問い合わせ 西九州させば移住サポートプラザ ☎ 25-9251

北野さんのご両親と一緒に記念撮影



自宅で鍼灸の施術を行う北野さん



北野謙市さん

両親のことを
考え地元へ
Uターン

移住を機に仕事のやり方に変化

ゆっくり会話しながら深いケアを

北野 謙市さん

時間のゆとりで仕事が充実
両親との会話も増えました

「両親の見守りや今後の介護のことを考えて、佐世保に戻ることを決めました」と話すのは本市出身で現在大岳台町で「東西医学北野はりきゅう院」を営む北野謙市さん。高校卒業後、福岡市内で大学に進学し、鍼灸・マッサージの国家資格を取得した後、鍼灸院を営んでいましたが、平成30年4月に奥さんと2人で佐世保に移住してきました。

当初の戸惑いも

近隣の方との交流で楽しい暮らしに

「福岡市に長年住んでおり、とても生活がしやすく、私も妻もすごく気に入っていたので、引っ越した当初は何かと比べてしまい、環境の変化に戸惑うことが多かったですね」と移住当時を振り返る北野さん。

「もうすぐ引っ越して2年が経ちますが、だんだんと今の環境に慣れてきて、近所の方ともよく会話をするようになりました。庭の木の剪定方法を教えていただいたり、道具を貸してくださったりして、近隣の人にすごく恵まれているなと感じています」と笑顔で続けました。

「佐世保での生活は時間にゆとりができて食生活や仕事などに変化があり、移住して良かったなと思いますね」と話す北野さん。以前は店舗を構え、日中は院内での施術、夜は往診、休日は勉強会などで時間に追われる生活をしていました。「この一軒家で開業してからは予約をたくさん入れずに患者さん一人一人とゆっくり会話をしながら治療しています。会話の中からその人の生活環境や性格を知り、もっと深いケアができていると思いますね」と仕事の面でも変化を感じているそうです。

「佐世保に帰ってきたことで両親との会話も増えましたね。今まで聞いてこなかった父の若い頃の話や母の好きな俳優などささいな話ですが、そういった話から両親の性格を改めて知ることができました。最近では介護への意見を交わすことが増えてきて、親子の関係の変化も実感していますね」と話していただきました。

(取材日1月16日)